自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での安心した暮らし、地域生活を支える為の支援を理念とした。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、常時掲示してあり、会議やミーティングの場で確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	正面玄関入った所に大きく掲示してあり、来所されたどなたにも目に付くようになっており、職員全員が内容を理解し説明できるようにしている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣接した公園に職員や入居者と近所の方々との団欒の場が在り、ホーム入り口には気軽に入っていただけるように張り紙をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の行事（運動会等）への参加や近くの喫茶店へ出かけたりしている。 なおかつ、近隣の小学生が来訪してくれる。	○	今まで移乗に地域の方との交流を深め、ボランティアの方々にきていただき、外出の機会もより多く作っていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	計画中ではあるが、喫茶コーナーを設け、地域の方々に来店していただきたいと思っている。	○	喫茶コーナーには、高齢者の方々にも多く参加していただき、ホームの実態を理解していただき、地域の方々の利用にもつなげていきたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で行い質の向上につなげている。 外部評価においては、結果をミーティングで報告し具体案の検討に勤めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	クラブ活動の提案がされ、実施に向けて検討している。	○	茶会、カラオケ、生花、ビデオ等のクラブを検討指示しに向けて用意を進めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	導入には至っていないが、医療連携加算を導入するにあたり、市の解釈を尋ね協議を行った。	○	医療連携加算等サービスの向上に向けて市の担当者と共に協議を続けていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者およびケアマネージャーが対応しており、職員への説明はその都度行っている。	○	勉強会等の機会を持ち、職員に制度の内容等認識してもらう。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会等積極的に参加し、ホーム内のミーティングにて話し合う機会を作っている。	○	事業所内の虐待については、職員の心のケアの点もあり、これから重視して取り組んでいきたい。

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 　契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、図表を取り入れ、わかりやすく簡素化した上で、それを基に口頭で説明を加え理解していただけるよう工夫している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 　利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の来所があり、相談事については、来所時に時間を取り施設側にフィードバックする体制をとっている。		
14	○家族等への報告 　事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月１回アミティ通信を作成し、写真を添付し、様子を書き送付している。 金銭管理についても、出納伝票に記入し月に１回請求書と共に送付し確認していただいている。 健康状態に関しても、管理者より家族様に連絡をとり状況を報告したり、来訪時に健康状態や過ごし方について報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 　家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的苦情受付機関や介護相談員来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。	○	幅広く意見をいただけるよう、投書箱を設置するように検討している。
16	○運営に関する職員意見の反映 　運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議と称し、運営者、管理者、ホーム長等意見交換できる時間を設けている。	○	月に一度開催するようにはしているが、人員の加減から思うように開催できず、定期的に行うようにしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 　利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	出来る限りの柔軟に対応できるよう調整している。	○	人員の加減もあり、難しい問題ではあるが、努力し取り組んでいる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係を築くために、離職以外の異動は行っていないが、やむを得ない場合は入居者様に紹介し、コミュニケーションを第一にとり、信頼関係の構築に時間をかけている。	○	離職に関しても、スタッフのやりがいをもてるように配慮し、働きやすい環境作りを心がけている。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ケアに関する課題を用意しレポートの提出をさせている。また、ホーム外研修をレベルに合わせて参加させている。	○	職員のレベルや開催場所によって難しいが、今後、月に一回程度、対外研修を受ける機会を設けていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会等に参加し交流を図り情報交換している。	○	他のホームの見学や研修会等に参加し、自ホームには無い意見や経験を吸収し、質の向上に取り組んでいける様努めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム長等から日常的な話を聞き、ストレス因子を軽減できるよう、個人への話し掛けや指示を行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の状況やレベルを見てそれに見合うハードルを用意し取り組ませている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当時は不安が多く、混乱されていることも少なくない。そのことを踏まえ、コミュニケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信頼し、安心して過ごしていただけるよう努めている。	○	人員の加減もあるが、初日、特に夜勤帯の人員を密にし接していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話相談では、おおむね状況説明をして下さるが、来訪されてからは、相談できる場所は設けているが、初回より話される家族様は少なく、何度か来訪されるうちに信頼関係が築け、辛かった日々の話を打ち明けられる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時におおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービスの紹介をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、本人様と家族様にホーム内を見学していただき、利用に関して本人様が安心して過ごしていただけるよう、今までの生活に少しでも近い環境作りに勤めている。	○	多目的室を利用し、お茶会等を開催、入居予定の方や地域の方々の参加も促進し、ホームでの生活を理解していただき、同時にサービス利用にもつなげていく、アミティお茶会を実施していきたい。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であり、色々な生活の技を教えていただくことも多い。職員の相談等で励まされることもあり、喜怒哀楽も含め、お互いが協同して生活できるよう心掛けている。	○	方言や昔の出来事、歌や漢字等一人、ひとり得意とされていることが違い、このような尋ねる機会を多く持てるよう心がけている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時、必ず時間を持ちお互いの意見を交換し、今思っておられること、今後の方向性等を相談できるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様来訪時に、本人様を含め、居室や応接室にて話す機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの開放により、馴染みの人の来所はなされており、時々電話での連絡もあり、本人様におつなぎしている。	○	年賀状等季節のあいさつ文や、手紙などの発信のお手伝いをしながら促していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人が好きな方に対しても、孤立しないよう体調に配慮しつつ、全体での催しには参加していただけるよう声かけしている。 その他、食事の席や外出時の移動手段や座席にも配慮している。	○	同じ趣味の方が集まり、より馴染みができる機会作りをする。一部実施ーお茶会、カラオケ会等。今後映画鑑賞、生け花を実施する予定となっている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対しても、電話連絡を取り、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居当時にホームでの暮らし方を本人様、家族様共に尋ねその意見に沿って支援できるように心掛けている。本人様より、希望聴取が困難な場合は、家族様より生活暦、趣味、趣向等を聞き出来る限り本人様に楽しんでいただけるよう努めている。		日々の生活の中でコミュニケーションをとる事により希望、要望を引き出すように努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時フェイスシートを家族様に記入していただき、生活暦や環境の把握に努めており、新たな言動や疑問が出た際はその都度本人様や家族様にお聴きしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課は大まかにしか決めておらず、一人、ひとり出来る限り自由に過ごしていただいている。その中で、表情を観察しつつ、出来ること出来ないことを見極めるようにしている。 心身の状態に関しては、毎朝バイタルチェックをしており、いつもと様子が違う際には、その都度バイタルを測定するようにしている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	自立支援を念頭に置きつつ、身近なニーズを中心としスタッフ同士話し合っている。 医療的なニーズを抱えておられる方に対しては、家族様への説明、主治医や他の病院と連携を図り作成する様努めている。	○	本人様、家族様とケアマネだけでケアプランを作るのではなく、現場の職員にも意見を聞くケアプラン会議を開催している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者が、一勤務者となり現場に入っているので、状態の変化に対応し、現場のスタッフや家族様に相談しリアルタイムで計画の変更を行っている。	○	３ヶ月ごとに見直しを行い、入院や、急な状態の変化がある場合は随時見直しを行なっている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートを作成しており、ケアチェック表に情報を記入し、職員が申し送りにも活用している。 ケアチェック表にはケアプランも記載されており、毎日サービスが提供できたかチェックする枠が設けられており、介護計画の見直しに役立てている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等家族様の意向により職員や管理者が付き添い出かけている。	○	今後共用型指定認知症対応型通所介護の導入を検討している。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	夏祭りや敬老の日等中学校や小学校に出向き参加している。 その他、地域の季節行事も民生委員の方から声をかけていただき参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスの実施までには至っていないが、近くのケアマネージャーや事業所の方と、より良く過ごして頂く為の方向性を相談している。	○	近くにデイサービス等あり、気分を変えていただくためにも家族さんと共に検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、クラブ発足等の助言をいただいている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からかかりつけ医が居られる場合は、入所されてからも継続していただけるよう体制を取りドクターと事業所との信頼関係を構築したもてるよう心掛けている。	○	病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様と相談し、かかりつけ医に対して受診の継続、又は、新規に病院と本人様、事業所の信頼関係を築けるよう心がけている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	治療、診断については、本人様はもとより、職員が付き添い、理解した上で、今後、生活上の問題点を相談し、病と付き合い過ごしていただけるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員との連絡ノートを作成している。その他にも、口頭での指示、実際の手技を観て看護職員がいない場合でも、出来る範囲で支援している。受診の際も、本人様の状態を看護職に伝え、出来る限り看護職も立会い受診している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関に、なるべく短いスパンでお見舞いに行き本人様の状態を直に観察し、ドクターや看護職から状態の予後を聞き早期退院に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族様とは、常に話し合いの時間を持ち、終末期の方向性を検討し、主治医や看護士から助言をいただき、本人様の意向になるべく添えるようにしている。	○	今後は、医療関係者との連携を密にとり、看護士と協同して、意向に沿えるようにその方の終末期のあり方を具体的に検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人様や家族様の意向を基に、本人様はどのように最後の幕を閉じたいのかを考え、ホームとしてどこまで支援していけるのかを職員で話し合い、今後に備え検討している。	○	主治医と連携をとりながら、具体的な終末期対応、対処方法のマニュアルの作成、スタッフ教育を充実させていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	まず本人様の意向を聴き、その後、家族様や職員等でその要望に出来る限り添えるよう検討し、次の住まいで出来る限りダメージの少ないよう退所サマリーを作成し、本人様、家族様に了解を得た上で細やかな情報提供が出来るよう配慮している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様に接する職員には全体の会議は基より、フロアー会議の際もプライバシーの確保や接し方、言葉づかい等を徹底している。	○	契約時に重要事項を説明し、同意書の一番に「個人情報の利用に関する事項」として取り上げている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で納得していただいている。 入浴や食事のペースや時間、その日の服装、外出の行き先、出来る限り希望に添えるよう心掛けている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかにしか日課を作っておらず本人様の気持ちに配慮しながら出来る限り柔軟に支援している。	○	日々業務を優先するのではなく、まずは共に座りコミュニケーションを密にすることを優先している。
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的にはホームへ来訪し行っていただいているが、本人様が望まれると店に出向きしていただいている。 服装に関してもパジャマから更衣の際に本人様に服を選んでいただいている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食事用マット拭き、机拭きには参加していただけるが、調理には参加していただけない。 箸や茶碗、湯飲みに関しては、使い慣れたものを持ってきていただき使用していただいている。	○	調理そのものではなく、下準備に協力していただける様支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草はドクターからの指示もあり禁煙されているが、配茶事に好みを伺い飲んでいただいている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者様一人、ひとりの排泄リズムを把握するため、チェック表を作成し、パターンをつかむよう心掛け、声かけを行っている。 拒否もあり、難しい点もあるが、普通の下着、紙パンツ等段階を経ている。 オムツの方でも、出来る限り、座り排便していただけるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の方が多く、職員が協力し合い誘導している。	○	夜間帯にも入浴していただける人員配置を検討している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者様一人、ひとりの生活習慣をなるべく崩さないよう心掛け、一日の中で睡眠時間を確保している。　　また、レク等も強制せず、帰室される方は自由にしていただいている。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴を生かし、仲居さんだった方には、下膳やマット拭きをお願いし、内装工事をされていた方には清掃を手伝っていただいている。	○	今後は、クラブ活動や生活の場面場面で、役割作りを行い生活にはりを持って頂く様努めたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には買い物等していただいているが、日常的には自己管理が難しく、盗難妄想がある方も居られお渡ししていない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日は難しいが、近所の公園への散歩やお地蔵様に手を合わせに出かけている。	○	人員の加減上難しい問題ではあるが、ボランティア等の募集を行い、外出の頻度を増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	全員は難しいが回転寿司を希望される方が多く出かけられる。	○	今後はご家族様にも協力を仰いでいきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所へご案内し、電話をかけていただいている。手紙や葉書もお勧めしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	月１回のアミティ通信等で面会を呼びかけている。 電話連絡等で状況説明や来訪を呼びかけることもある。 来所された際は、心地よく過ごしていただけるよう、雰囲気作り、空間作りを心掛けている。	○	面会の時間は設定しているものの、臨機応変に対応しており、居室はもちろん、居間でも面会していただけ、家族で過ごせる多目的ルームも設置している。
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切していない。 徘徊に関しても無理に止める事はせず、様子を見ながら声かけを行うようにしており、行動を制限しないよう徹底している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	盗難妄想で施錠を希望している方以外は鍵をかけていない。	○	玄関に関しては、交通量の多い道路が近いこともあり施錠しているが、事務員が居る場合は、極力開放している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	帰室されている方への安全確認や夜勤対の定時巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人様が針仕事をされる方には裁縫道具をお渡ししている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	昼夜問わず必ず見守りできる体制をとっている。特に夜間帯に関しては事故防止に注意を払い定時巡回のほかにリスクのある方に対しては随時巡回を行っている。 また、各マニュアルを作り職員が閲覧できるように各フロアの机に置き、熟知するよう徹底している。	○	サービス提供中に、幸いにも事故にはいたらなかった事に関しても、「ヒヤリ、ハット」を記入し、全職員に回覧し押印している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救命の講習を受講しており、月１回のミニケアレポート等で勉強も定期的に行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策委員会を設けマニュアルを作り、避難訓練等実施しており、消防署の講習にも参加し全体会議の席で発表し理解を深めている。	○	日頃より、水や食糧の備蓄に心がけており、地域の方々に協力していただけるようにホームを理解してただけるように努めている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクに関しては、家族様来訪時等に相談、報告し、救急対応の方向性を確認している。 救急対応の方向性に関しては職員全員で確認し些細なことに関しても報告するようリスク管理に力を入れている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	医療ノートを作成し、職員全員が情報を把握し、入浴時の外傷の確認、排泄時の排泄物の確認、誘導時の体温の確認等を行い早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組む　者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様のであるか確認する者、という風に薬に関しての確認は２重に確認してあり、入居者様全員の内服に関しては、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作っており、職員全員が閲覧している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	直ぐに下剤を使うのではなく、水分補給に努め、出ない時は、主治医からの服薬の指示を仰ぎ、体操や腹部マッサージ等をしトイレにて座って排泄していただけるように配慮している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、食後、就寝時の歯磨き、口腔ケアを実施し、又、歯磨きが困難な方には口腔内清拭をしており、うがいが出来ず、嚥下の悪い方に対しては、トロミを使用し飲み込まれても大丈夫な様配慮している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の補給量、食事の摂取量をケアチェック表に記録し、全職員が情報を得られるようにしている。	○	水分に関して、嚥下困難な方に対しては、トロミをつけ、コップで飲みにくい方に対してはゼリー状で提供している。 食事に関しても、咀嚼の状態に合わせ、刻みやペーストを提供している。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルに従い、入居者様、職員共にインフルエンザ予防接種を受け、他の感染症に関してもマニュアルを作成し、その内容を全職員が周知している。　季節により加湿器を使用し、手すりやドアノブ、トイレに関しては、夜間帯やその都度、次亜塩素酸ナトリウムで滅菌消毒を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器、まな板等は乾燥機を使用し熱菌消毒を毎食後行なっている。 又、夜勤帯で各手すり、ドアノブの消毒や次亜塩素酸ナトリウムによる滅菌消毒を行なっている。 食品に関しては、冷蔵庫を過信せず、怪しい食材は処分し、新鮮な食材を使用している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、花壇や植木鉢を配置し、違和感なく入っていただける雰囲気にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食道、リビングは、オープンキッチンになっており、料理する音や匂いを感じていただく事が出来、楽しく談笑できる場所作りに配慮している。	○	カーテンを２重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの照明に関しても段階的に調節できるようになっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングから少し離れた場所にミニソファを置き、１人になられたり、気の合った者同士の時間を持っていただけるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用しておられた家具や寝具等を、入居時に出来る限りもって来ていただき、使用していただいている。	○	カーテンは、防火カーテンを使用しているため、ホームの物を使用していただいている。
84	○換気・空調の配慮 　気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の換気扇は、常時作動しており、湿度計により職員が入居者様と相談し調節している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各廊下には手すりを設置し、室内に関しても必要な方にはその方にあった位置に、手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 　一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、わかりやすいよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 　建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム外回りの植木の水遣りや、季節により屋上でのバーベキュー会等に生かしている。		

（ 部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ○ ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

運営理念の「その人らしさを大切に　住み慣れた町で仲良く　ゆったり　豊かに　楽しい生活を」を基にして、季節の移ろいを感じていただけるように、季節行事を充実させ、お花見やバーベキュウーの際には、家族様にも参加していただき、共に楽しんでいただけるように努めています。
その他、生活と医療のバランスを考え、出来る限り自立した生活を送っていただけるよう、入居者様の「出来ること。」、「出来ないこと。」を見極め、入居者様に不安や混乱を極力感じていただかないように努力しています。
薬に関しても、必要最低限の服薬で、副作用を出来る限り少なく過ごしていただけるようにしています。医療的には、早期発見、早期対応を心掛け、主治医や担当医と連絡を密にとり、家族様に相談し、本人様に安心して過ごしていただけるよう努めています。